

慶應義塾大学大学院 文学研究科 後期博士課程

独文学専攻

3つのポリシー

【ディプロマ・ポリシー】

独文学専攻では、課程修了時に学生が身につけるべき能力として以下のものを定め、学則に従って修了要件を満たし、博士論文審査に合格した学生についてはこの能力を身につけた者と認め、博士（文学）の学位を与える。

1. 独文学専攻において定められた博士論文執筆資格審査に合格した上で、ドイツ語学研究ならびにドイツ文学研究、あるいは関連分野の研究を内容として博士論文を執筆し、定められた手続きに則った審査に合格し、その論文を通じて、当該領域の研究に独創的な寄与を成し、その分野の研究の発展に大きく貢献できる。
2. 研究対象とする分野について、最新の研究動向や研究課題に精通し、包括的で深い専門知識を有し、ドイツ語および日本語で国際的に成果を発信してその分野の研究に独自の貢献ができる。
3. ドイツ語を通じて異文化の文化的、歴史的、地理的特性を深く理解し、他者との交流を通じて課題を発見し、それを解決していくための議論や実践に資する高度なリサーチ能力、プレゼンテーション能力を身につけていることで、高度な異文化リテラシーを備えた社会人、研究者、教育者として国際社会への発展に独自の貢献ができる。

【カリキュラム・ポリシー】

独文学専攻では、ディプロマ・ポリシーの達成を目的として以下のカリキュラムを編成する。

1. ドイツ語学ならびにドイツ文学、あるいは関連分野の領域の研究に独創的な貢献をする博士論文の執筆を可能とするため、指導教員が担当する特殊研究科目を中心に科目を履修するとともに、指導教員が中心となって個別論文指導を行い、高度なリサーチ能力と課題発見能力、さらにドイツ語による高度な論述力を養う。博士学位取得のためには、学生は専攻、分野が定めた博士論文執筆資格審査に合格し、指導教員の許可を受けた上で博士論文を文学研究科委員会に提出して受理され、その後1年以内に、文学研究科委員会で承認された主査および副査によって論文が審査されて審査結果が文学研究科委員会に報告され、その報告に基づいて、文学研究科委

員全員の投票によって合格しなくてはならない。独文学専攻においては、専攻が定める「博士の学位申請および論文審査に関する手引」に則って博士論文執筆資格審査に合格し、また論文提出までに同「手引」に定められた論文公刊や学会発表の条件を満たしている必要がある。

2. 専門とする領域において最新の研究動向や研究課題に精通し、専門的研究を通じて学会への独自の貢献をするために必要な高度なリサーチ能力、課題発見能力、一次資料分析能力、議論構成力を養成するため、日本語ならびに外国語（ドイツ語）による特殊研究科目を設置する。博士課程の全在学期間を通じて履修可能な少人数演習科目を設置し、その履修を修了要件とする。研究成果を学会や専門誌で発表することを目的として具体的な指導を行う。
3. 個別の専門的研究を国際的かつ独創的に展開し、高度な異文化リテラシーを身につけることを補助するために、文学研究科による留学制度、慶應義塾大学国際センターを通じて交換留学、さらに学内外の各種留学制度などを活用した、海外の大学院への博士学位取得を目的とした長期留学、単位取得や専門的なディプロマ取得を目的とした短期留学を推奨する。また、文学研究科独自の支援制度により留学を援助する。
4. 海外への留学をはじめとし、より柔軟な履修を行えるように、全ての科目は半期科目として開講する。
5. 研究分野のより専門的な研究を可能とするために、海外の大学院への正規留学によって取得した単位を、単位数を限って修了要件に含めることを認める。
6. 博士課程の学生の高度に専門的な研究を推進するために、海外の著名な研究者に副指導教授としての指導を依頼し、文学研究科委員の指導教員との共同指導のかたちで博士論文を準備することができる。

【アドミッション・ポリシー】

独文学専攻後期博士課程では、次のような資質を持つ学生を求めている。

1. 自分の研究領域および関連分野について、高度な専門的知識を持っている。
2. 修士課程における専門的研究をふまえて、博士論文につながる独創性のある具体的な研究計画を自ら考え、日本語ならびにドイツ語でまとめることができる。
3. ドイツ語の一次資料および二次資料を正確かつ批判的に読むことができる分析的な読解力、独創的な学術的論考をドイツ語で緻密に展開できるアカデミックなライティングの能力を身につけている。
4. 研究資料を講読するに十分な第2外国語の能力を有している。
5. 博士課程修了後の社会人、研究者、教育者としてのキャリアについて、積極的かつ具体的に考えている。